

第 61 回 直原 康光さん (筑波大学)

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第 61 回目は、直原 康光さんにご執筆いただきました。

親の離婚と子ども

「離婚」と聞いて皆さんはどのようなことを思い浮かべますか。日本では 3 組に 1 組が離婚しており、年間 20 万人の子どもが親の離婚を経験しています。しかし、日本ではまだまだ「離婚」は口に出しづらいのではないのでしょうか。

私は、臨床現場で、離婚を考えている夫婦や離婚後の親子に出会う中で、親の離婚後に大人がどのような配慮を行うことが子どもの助けになるのだろうか、という問題意識から研究を始めました。法制度や文化的背景が欧米と異なるため、日本独自の研究が必要です。最近では、面会交流（別居する親が子どもと会うなどして交流すること）やステップファミリー（親の再婚あるいは新たなパートナーとの生活を経験した子どものいる家族）にも関心をもっています。今後も、現場での経験を活かして、当事者の親子や支援者に還元できる研究を進めていければと思っています。

直原 康光 (Yasumitsu JIKIHARA)

【所属】 筑波大学

【連絡先】 jikihara1110@gmail.com

【HP】 <https://researchmap.jp/jik1110/>